



学年通信【GO FLY】No.9で、「5月3日は何の日ですか」ということを書いてきました。「国民主権」・「平和主義」・「基本的人権の尊重」を基本とする、日本国憲法が施行された日でしたね。身近なところで言えば「基本的人権の尊重」が大切であり、それは、わたしたちが少数者の存在に気づき、その輪を広げることで人権を尊重することにつながると書いてきました。

民主主義の基本ルールは多数決です。多くの議論をかわしたうえで最後には多数の意見にしたがうというルールですが、それがすべてではないこともあります。少数の意見、またはもの言わぬ人たちの意志はどうなるのでしょうか。そのことを考えると、「基本的人権の尊重」というものが、「多数決ルール」の不十分なところを補ってくれているのではないかと思うのです。少数者の存在に気づき、きちんと考え方です。

さて、先日の登校日は分散登校ではありましたが、少しずつ元にもどりつつあるようです。そんななかで気になるのは、登校日に出席できなかった人たちのことです。理由はいろいろあるかと思いますが、登校を不安に感じるという人もあるのではないでしょうか。長い休校期間のあとの登校日は、不安だと感じるのでしょうか。友だちはどのように変化しているのかな?、自分はどのように見られているのかな?、宿題やってないけど勉強はついて行けるのかな? さまざまな不安を感じているのではないかでしょうか。でもね、だいじょうぶ。みんな同じように不安を感じていて、でも少しずつ少しずつ行動範囲を広げているのです。「ここまでだいじょうぶだな」というというふうに、ひとつずつ確認しながら広げているのです。

何を隠そう、じつは先生たちにも不安がありました。久しぶりの授業です。「教室でしっかり声が出来るかなあ」、「うまくしゃべれるかなあ」そして「なんだかよくわからないけど不安・・・」と、いろいろあるのです。「準備の準備」をしっかりしたつもりですが、それでも不安はありました。そういうときに他の先生たちの話を聞くと、「なんだか、みんな同じことを考えているんだ」ということがわかり、落ち着くことができたように思います。そう、みんな同じなんです。

人によっては、目の前のハードルが高すぎると感じることもあります。そういうときには、ハードルの下をくぐることもあります。高すぎたらハードルの下をくぐればいいんです。高ければ高ほどくぐりやすくなりますよ。そんなふうに考えていけばしんどくない!

学校は勉強だけをする場所ではありません。みなさん一人ひとりの努力や過程を認めて、人間的な成長を支えていくところもあります。休校中の学習支援でも、一方的に課題を出して終わりではなく、また、結果だけにとらわれることもありません。だいじょうぶ、気にしない。ともにすすんでいきましょう。

